

国際交流・社会貢献等の概要

●海外の協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との提携はない。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内 5 大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、27 年度に 5 大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同で行っていくための協定を締結した。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行えるよう、様々な形で支援できることとなった。

●産学官連携

○伊勢崎市との包括連携協定締結

上武大学と伊勢崎市は地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力する為の協定を結んだ。平成 27 年 2 月 6 日（金）に伊勢崎市役所において行われた締結式には大学関係者 5 人が出席し、澁谷理事長と五十嵐市長によって協定書が取り交わされた。過去にも協力関係にあった上武大学と伊勢崎市であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになった。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、市内の公民館有効活用の方策を提言する取り組みを実施することとなった。これは本学の専門ゼミの教員と学生が渋川市の市民の方々へのアンケート調査などを実施しながら、市内にある公民館の利用状況や存在意義などを取りまとめ、これに基づく提言を行っていくものである。なお渋川市からはこの調査研究に関する補助金も交付されている。

●社会貢献活動

○公開講座

- ・上武大学手がき文化研究所第2回公開講座「武者小路実篤」

平成26年10月12日 高崎キャンパス

講師／小池邦夫（上武大学手がき文化研究所所長）

一般参加者のほか、陸上日本選手権200m優勝者の原翔太（4年）をはじめとする運動部学生など約700人が受講。小池邦夫所長を講師とし、自らが影響を受けた武者小路実篤についてその魅力を紹介。後半では絵手紙の実技を指導した。

- ・スポーツコンディショニング講座

平成27年2月9日・13日・16日・20日・23日 伊勢崎キャンパス

講師／柳澤修准教授、小林直行准教授、若松健太講師、二橋元紀講師

第1回 コンディショニングとは何？

第2回 バランスボール&自体重を用いた体幹エクササイズ

第3回 スポーツテーピング

第4回 疲労回復のためのスポーツマッサージ

第5回 早期復帰のための下肢のリハビリテーション

○授業等を通じたボランティア活動

- ・岩手県大船渡赤崎地域復興隊（7回目訪問）

平成26年9月18日（木）～平成26年9月22日（月）

神戸大学との合宿形式のワークキャンプで、学生・教員約20名参加。復興市の準備・販売支援

- ・群馬県地球温暖化防止活動推進センター実施イベント ボランティア活動

平成26年9月27日（土）

学生3名参加。

企業・行政・大学等の事業展示、基調講演、音楽等イベントが実施される中、受付・ビラ配り等

- ・新町フェスタ2014ボランティア

平成26年10月4日（土）～平成26年10月5日（日）

学生2日間で13名参加。

新町芝生公園を会場にステージイベント、青空グルメパーク、フリーマーケット等様々な企画が実施される中で、イベント支援・後片付け

- ・群馬整肢療護園第 41 回あゆみ祭ボランティア
 平成 26 年 10 月 25 日（土）
 学生 10 名、教員 1 名 計 11 名参加。
 施設利用者の移動・移送（車椅子・バギーの介助）および買い物等の手伝い
- ・しんまち商工祭 2014・しんまち大道芸まつり・新町ふるさと祭り神流川合戦ボランティア
 平成 26 年 11 月 2 日（日）
 学生 50 名、吹奏楽部、チアサークル、教員 3 名
 しんまち商工祭 2014・しんまち大道芸まつり・新町ふるさと祭り神流川合戦の運営スタッフとして参加。
 テント設営、立看・のぼり旗設置、ステージ設営、鼓笛隊先導、楽器運搬、ゴミ拾いなど会場整備、撤収作業等。
 学生 13 名が鎧武者に扮し、武者行列に参加。吹奏楽部・チアサークルは特設会場にて行われた「いちょう音楽祭」に出演。
- ・「グリーンヒル美里（身体障害者療護施設）」入所者への絵手紙講習支援
 平成 26 年 11 月 29 日（土）
 理事長、学生 4 名、教職員 5 名参加 計 10 名
 入所者への絵手紙講習および補助等
- ・上毛新聞主催「第 2 回アットホームコンサート」ボランティア
 平成 26 年 12 月 25 日（木）
 学生 2 名参加
 クリスマスコンサートボランティアスタッフとして、駐車場警備、パンフレット配布等
- ・岩手県大船渡赤崎地域復興隊（8 回目訪問）
 平成 27 年 3 月 7 日（土）～平成 27 年 3 月 11 日（水）
 学生 2 名、教員 1 名 計 3 名参加
 震災追悼式準備・出席、復興市作業、仮設住宅への訪問等
- ・高崎市立新町中学校学習支援ボランティア
 平成 26 年 6 月 19 日・20 日・23 日・24 日、9 月 22 日・24 日・25 日・26 日・29 日、11 月 10 日・11 日・12 日・13 日・14 日、平成 27 年 2 月 9 日・

10日・12日・13日・16日 各日程 PM4時～PM5時

学生3名参加

中学生（1年生～3年生）に対して数学の学習支援。

・新町七夕まつり

平成27年7月4日（土）～5日（日）

学生72名（延べ）、教職員3名参加

お祭りの企画・運営、飾り付け等の準備、かき氷・綿あめ・塩もみきゅうり等各種販売、音楽イベントでのパフォーマンス、「学生が考えた駅からハイキング」の企画・支援、その他各種イベントの補助、片付けなど地元のお祭りを支援

・新町こどもクラブ「虹」納涼祭

平成27年7月30日（木）

学生6名参加

納涼祭の準備および子ども達の活動のサポート、出店等の手伝い

・第41回高崎まつり

平成27年8月1日（土）～2日（日）

学生15名（延べ）、硬式野球部員40名（延べ）参加

お祭りの企画・運営、こども広場での支援、ワッペン販売、清掃支援など

・藤岡市「かんなの里」夏祭り

平成27年8月1日（土）

学生1名、教員1名参加

夏祭りでのゲームコーナーの手伝い、各種食べ物・手作り小物などの販売、太鼓等の演奏等

・新町ふるさと祭り

平成27年8月9日（日）

学生7名、硬式野球部15名参加

高崎市新町商工会新町青年部主催のふるさと祭りのお神輿かつぎに参加

・群馬県戦没者追悼式

平成27年8月15日（土）

学生2名参加

群馬県内大学生と共にボランティアとして参加。参列者への配布物の準備作業と配布、受付、後片づけ等の活動

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等支援学校の4校とは高大連携協定を締結している。内容的には高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の協働研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援などであるが、このうち榛名高校においては、高校側からの要望を受けて、本学における絵手紙の活動を高校生にも体験してもらう授業を実施した。また榛名高校も加わっている県内「家庭クラブ」の研修会において、各高校からの代表者らおよそ70名に対しても、同様に絵手紙体験を実施した。

○地域との連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助などがあり、その他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。

また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、よみがえれ新町紡績所の会とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。

○国際交流活動の推進

手がき文化研究所の活動として、絵手紙を通じた地域貢献を実践しているが、平成27年2月に大学における国際交流活動の一環として、上武大学生9名とともにパリ日本文化会館で現地のフランス人を相手に絵手紙教室を実施した。絵手紙教室を受講したのはパリ日本文化会館で日本語を学ぶ人で、フランス国立東洋言語文化大学の方々を含むおよそ30名。同会館事務局では「平日にこれほどの参加者が集まるのは珍しい」という人気ぶりであった。教室が始まると受講生はいずれも真剣な表情で筆を持ち、フランス人ならではの豊かな色彩感覚で絵手紙を完成させてくれた。

本学学生たちは初めて絵手紙の指導役となったうえ、相手はフランス人。はじめはかなり緊張していたが、何とかコミュニケーションを取ろうとする姿勢が受講生にも伝わり、英語と日本語を織り交ぜて意志の疎通を図ることができた。この体験は学生に大きな印象を与えたようで、大学としての国際

交流事業としても有意義であったため、今後継続して実施される予定であり、既に来春ニューヨークにて同様の取り組みを実施すべく最終調整を行っている。

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、国内外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際にアメリカの Lilly 社において、商業的価値あるものの開発のための譲渡依頼があり、これに応じ、その他カナダの Samuel Lunenfeld 研究所から、中国の中山大学から、同様に研究のための譲渡依頼があり、これらにも応えている。

2015年にはトルコの医科大学生を夏季研修生として受け入れ、40日間研究を指導した。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

・学長

公益財団法人 武田科学振興財団理事、公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団理事、兼、研究費審査委員会委員、公益財団法人 微生物化学研究会研究アドバイザー、公益財団法人 高松宮妃癌研究基金学術委員、東京大学大学院 新領域創成科学研究科客員教授、独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒト由来試料実験倫理委員会委員長、第36回日本リンパ学会総会招待講演、平成24年度日本生化学会関東支部例会特別講演、第3回がん微小環境に関する国際シンポジウム（中国、清華大学）招待講演、北京大学・特別講演など